

# 加古大池で手作り挙式

## 兵庫大生、授業の一環でプロデュース

稲美

ため池を中心に豊かな自然が広がる東播磨。中でも、加古大池（稲美町加古）は甲子園球場12個分の大きさを誇り、水鳥たちの憩いの場だ。その加古大池を舞台に、結婚式が挙げられるという。主体となるのは兵庫大学（加古川市平岡町新在家）の学生たち。人生の「晴れ舞台」を手作りで彩る学生たちの奮闘を追った。

（児玉美友）

きな音楽、お互いの好きなところ…。和やかな雰囲気、心がけながら、事前に考えた質問をしていく。式へのこだわりを聞き出す中で、学生たちは構成や演出、装飾品のアイデアを出し合った。

時には石川教授とも激しく意見をぶつけ合った。「あなたたちの案をウエディングでやる理由は何？」。観客の動線や司会のかけ声など細かい演出で、学生同士で盛り上がった話を妙案として出しても、「根拠が薄いのでは」と教授が指摘。それでも「じかに新郎新婦から希望を聞いたのは私たちだから」と、学生たちが感じた2人のイメージを式に落とし込んでいった。

参列するゲストと手作りする「結婚証明書」は、海が好きという2人の話から、ゲストの指紋で波を表現するユニークな発想を試

をよく訪れ、自然の風景に一目ぼれした。今年結婚する際に、友人からこの企画を紹介され、即応募を決めたという。

### 入念な準備

2人が初めて大学を訪れたのは9月。まずは2人のことを知り、式の雰囲気やプランを練ろうと、学生たちがインタビューした。なれそめ、思い出の場所、好

同大現代ビジネス学部の授業の一環として、稲美町と連携し、2018年から毎年11月に実施している。カップル1組を公募で選び、石川夕起子教授と2～4年の22人の学生が全力でプロデュースする。

今年選ばれたのは、神戸市中央区に住む医師の王億さん（45）と看護師の前原智也子さん（60）のカップル。仕事の合間に2人で稲美町



式の後、感謝を伝え合う新婦と学生たち。稲美町加古



ウェルカムボードやリングピローもすべて学生たちの手作り。加古川市平岡町新在家、兵庫大

## 新郎新婦と綿密に打ち合わせ 構成や演出など考案

みた。ウェルカムボードはイラスト担当、指輪交換で使うリングピローは裁縫担当と、学生それぞれの得意分野を生かして作った。ゲストへのおみやげなど細かな調整にも意欲的な学生たちの姿勢に、新郎新婦も気持ちを高めていったという。

### 迎えた本番

式当日は、冷たい風が吹き荒れた。新郎新婦やゲストが体を冷やさないよう、急きょカイロや温かい飲み物を用意。加古大池の管理棟前に椅子を並べ、バージ

ンロードのじゅうたんを敷いた。

風でじゅうたんが飛びそうになるのを、学生や先生らが必死で押さえながら式が始まった。30人ほどの友人や家族に見守られ、タキシード姿の新郎、真っ白なドレスを身にまとった新婦が順に入場した。

学生たちは司会や誘導、備品準備と分担して黒子に徹する。学生たちのサプライズでのダンスや、客席からのバイオリン演奏に、会場全体が祝福ムードに包まれていった。

終盤には風が穏やかにな

り、秋晴れの空がため池の水面に映った。「もともと水のなかった稲美町は水路を引いてこれだけ豊かな土地になった。結婚という新たな門出にこれ以上ないふさわしい場所だ」。笑顔で言い切る新郎のあいさつにゲストらはうなずき、温かい拍手を送った。

「最高の結婚式をありがとう。皆のおかげですてきな思い出になるわ」。式を終え、涙ぐむ新婦は女子学生らと抱き合い、喜びを伝えた。

4年の小寺里美さん（22）は「2人の笑顔を見られてほっとした。3カ月間たくさん考えて、2人が最高だと思える瞬間に立ち会えたことが幸せです」と顔をほころばせた。

「最高の瞬間に立ち会え幸せ」



加古大池のほとり、たくさんの友人や家族に祝福される新郎新婦＝稲美町加古